

# 山口大学医学部 附属病院でのHIV診療

山口大学大学院 医学系研究科

湯尻 俊昭

2021年3月4日

令和2年度第2回中国・四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会

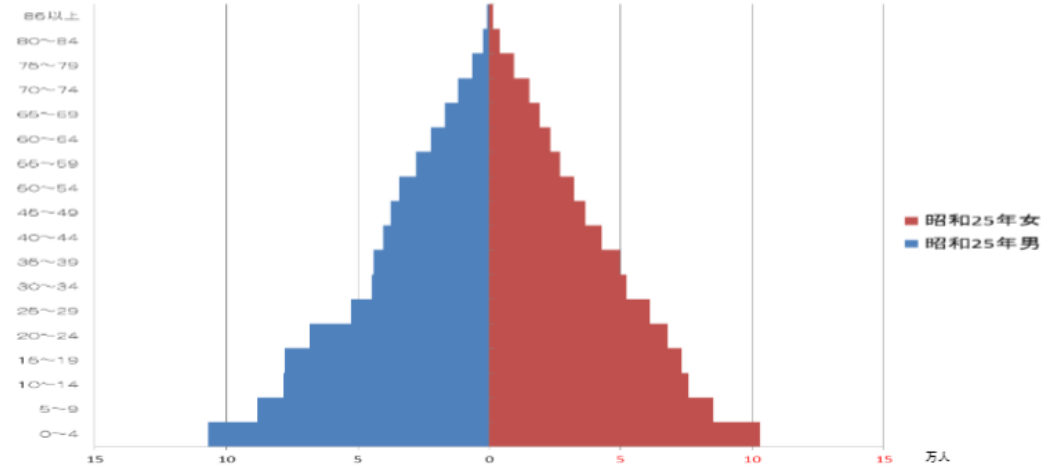
# 山口県の人口分布

令和3年1月1日現在

男女別日本人数及び外国人数

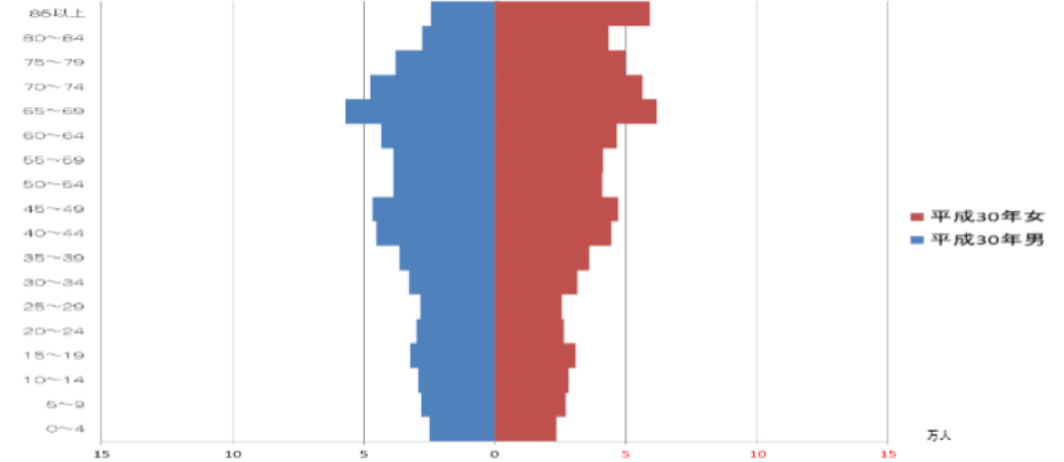
|   | 日本人数<br>(人)      | 外国人数<br>(人)   |
|---|------------------|---------------|
| 男 | 627,693          | 7,321         |
| 女 | 693,707          | 7,754         |
| 計 | <b>1,321,400</b> | <b>15,075</b> |

昭和25年人口ピラミッド

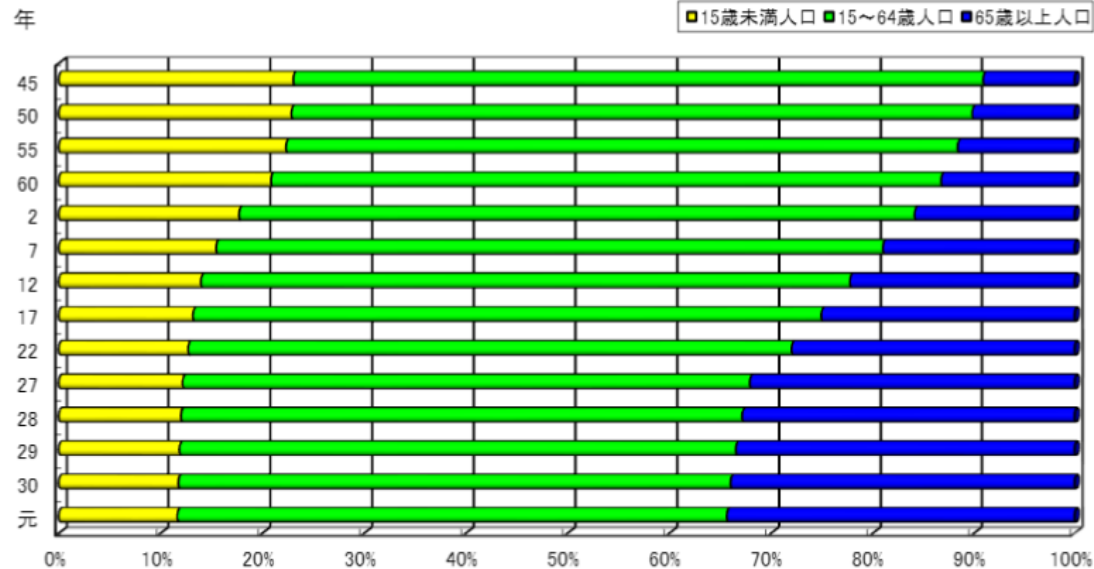


総務省統計局「昭和25年国勢調査」

平成30年人口ピラミッド



県統計分析課「平成30年山口県人口移動統計調査結果概要」



# 山口県のHIV感染症診療



# 山口大学医学部附属病院 HIV感染患者診療体制

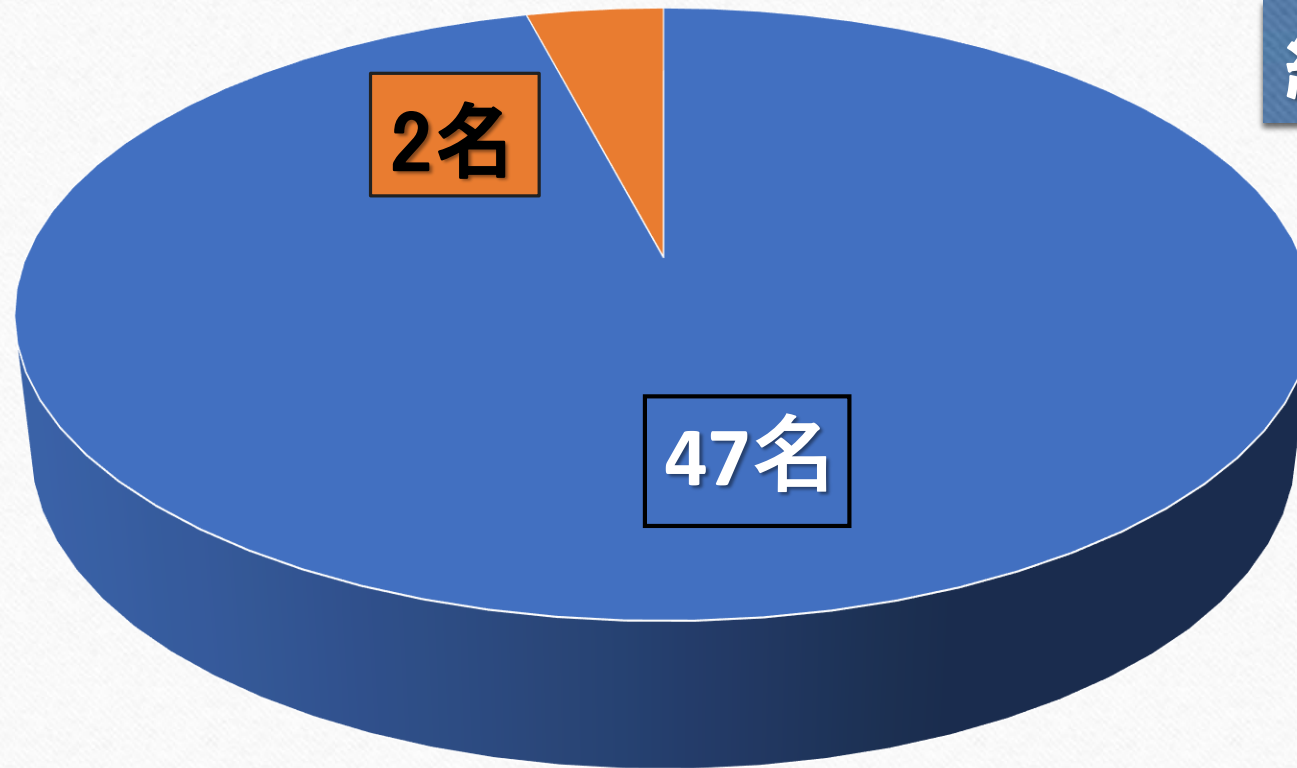
|        |    |         |
|--------|----|---------|
| 医師     | 1名 | (血液内科医) |
| 看護師    | 1名 | (専従)    |
| 薬剤師    | 1名 | (専任)    |
| MSW    | 1名 | (専任)    |
| カウンセラー | 1名 | (派遣)    |

## 累計登録患者 (2021年2月時点)

|              |             |     |      |     |
|--------------|-------------|-----|------|-----|
| <b>総数:</b>   | 74名         |     |      |     |
| <b>性別:</b>   | 男性          | 71名 | 女性   | 3名  |
| <b>病期:</b>   | AC          | 46名 | AIDS | 28名 |
| <b>国籍:</b>   | 日本          | 71名 | 外国   | 3名  |
| <b>感染経路:</b> |             |     |      |     |
|              | 異性間性的接触     | 1名  |      |     |
|              | 同性間・両性間性的接触 | 55名 |      |     |
|              | 血液製剤等       | 12名 |      |     |
|              | 静注薬物使用      | 2名  |      |     |
|              | 不明          | 4名  |      |     |

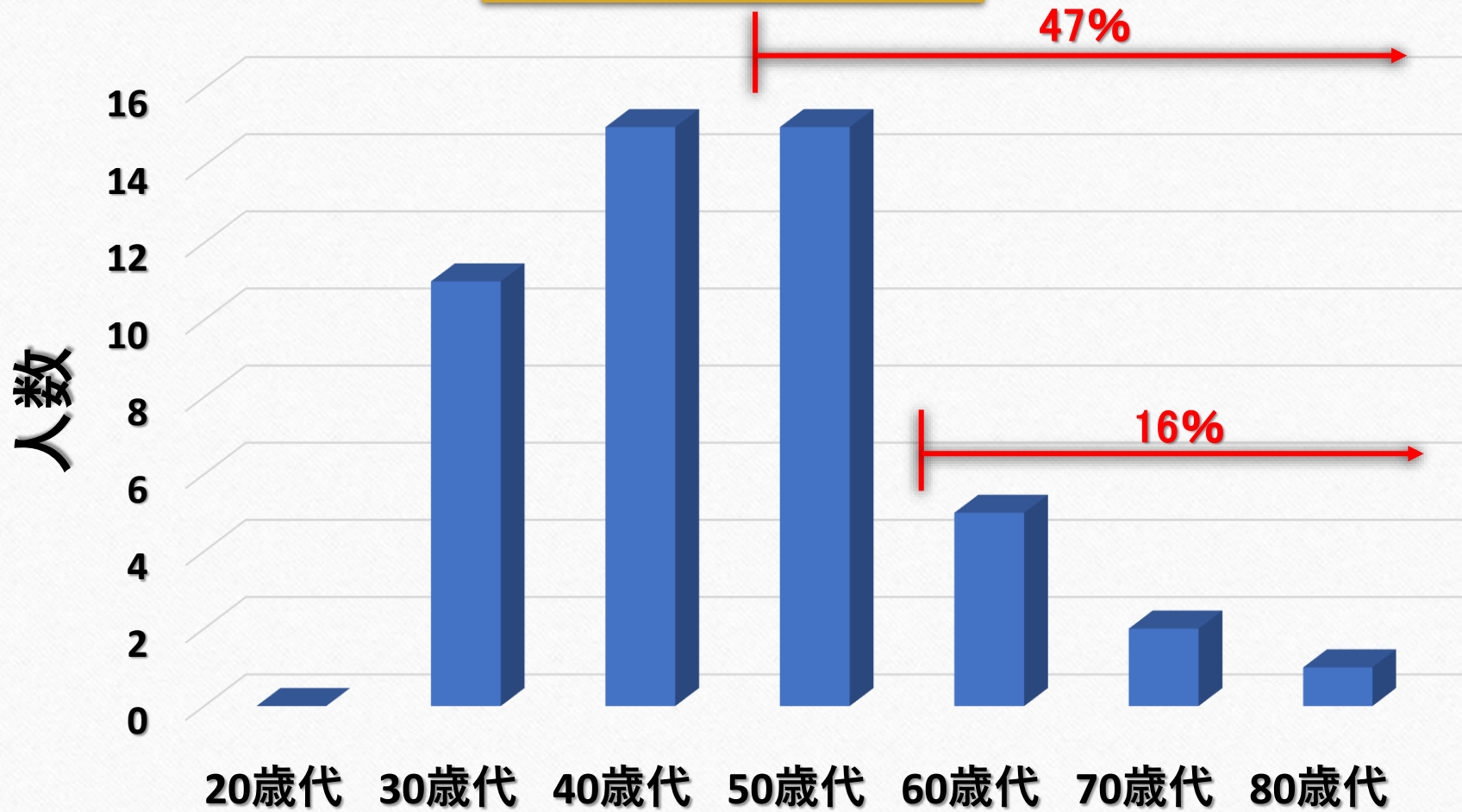
# 現在診療中の患者の内訳（性別）

総数 49名



■ 男性 ■ 女性

# 年齡分布(49名)



## 治療内容

| ART               | 人数 |
|-------------------|----|
| BIC/TAF/FTC       | 18 |
| DTG/3TC           | 17 |
| DTG+TAF/FTC       | 5  |
| DRV/c/TAF/FTC     | 2  |
| RAL+TAF/FTC       | 2  |
| DTG/ABC/3TC       | 1  |
| RPV+TAF/FTC       | 1  |
| RPV+ABC/3TC       | 1  |
| RAL+DRV/c/FTC/TAF | 1  |



## 併存疾患

- 高血圧症
- 2型糖尿病
- 脂質異常症
- ウイルス肝炎、非アルコール性脂肪性肝疾患
- 肥満症
- 慢性腎臓病、慢性腎不全
- 骨粗鬆症
- 高尿酸血症
- 悪性腫瘍
- 血友病



# HIV感染者は、非HIV感染者に比較して悪性腫瘍に罹患しやすい

## ARTの導入

AIDS指標悪性腫瘍(カポジ肉腫, 非ホジキンリンパ腫,  
原発性脳リンパ腫, 浸潤性子宮頸癌)

非AIDS指標悪性腫瘍



アンケート結果

HIV感染症に伴う非エイズ指標疾患悪性腫瘍

—全国HIV診療拠点病院アンケート調査 2018年—



罹患率の推計 (2018年)

- 2017-18年報告数 …………… 悪性腫瘍 174例 (87例/年)  
日和見合併症 621例
- 2017-18年エイズ動向調査 …… エイズ報告例 790例  
これまでのHIV感染例 約3.01万人  
(生存を2.90万と仮定)

補足率78.6%

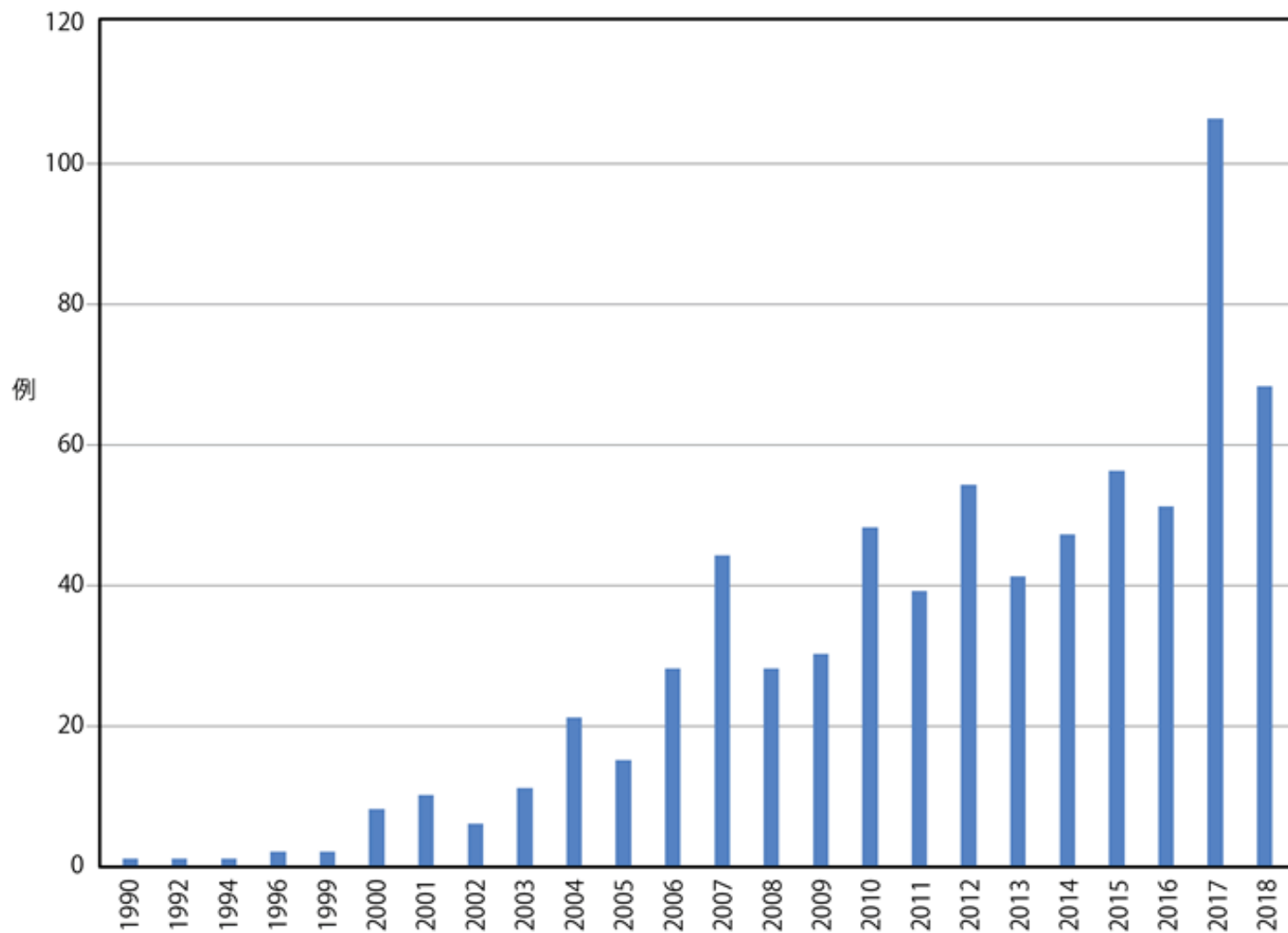
$$85.0 \div \frac{621}{790} \times \frac{10}{2.90} \div 372.9$$

2017-18年 HIV感染者報告の年齢構成を用いた  
昭和60年モデル人口での年齢調整罹患率 = 592.54 / 10万

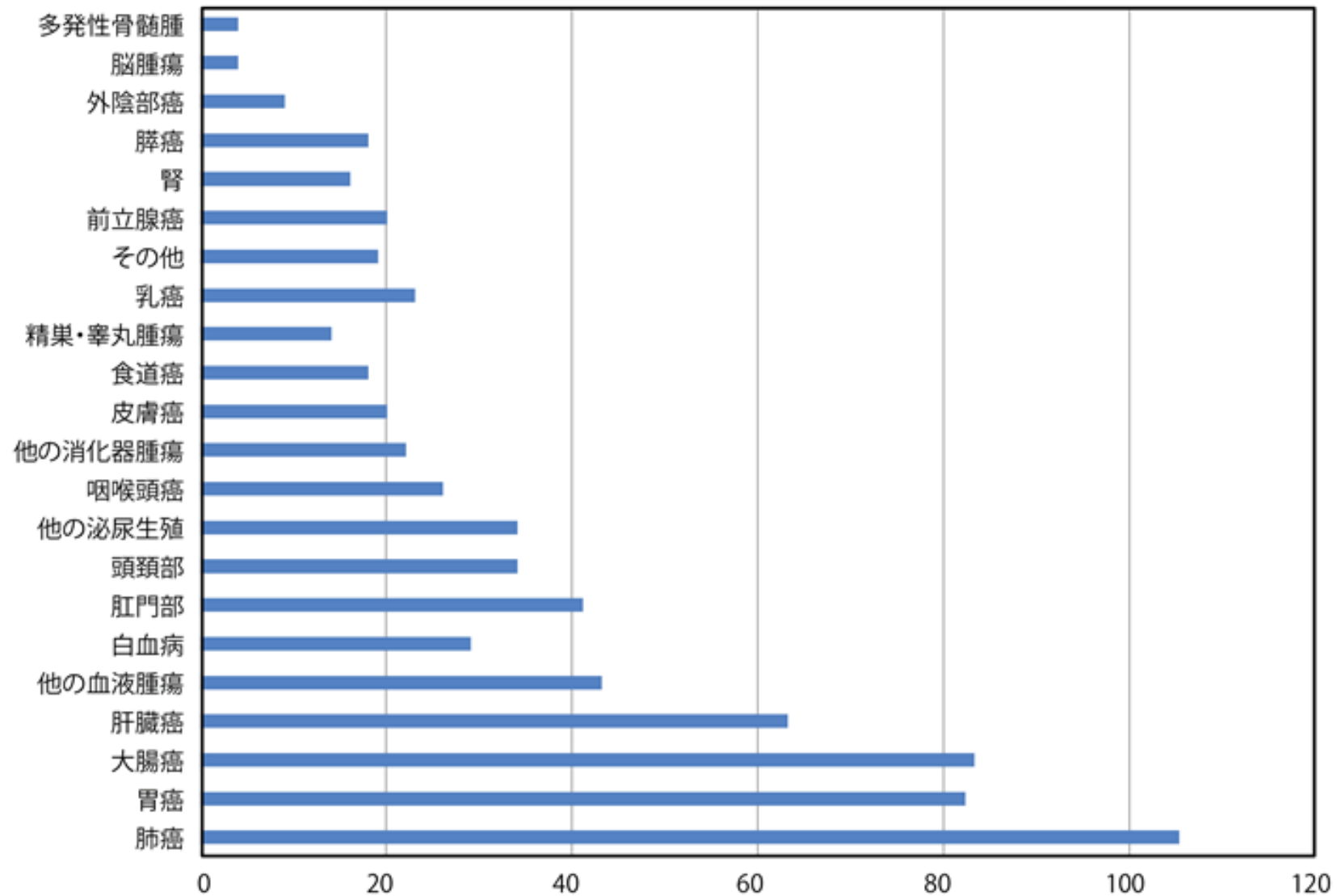
- 2017年 全部位悪性腫瘍 (上皮内がん含む) (国立がんセンター)  
年齢調整罹患率 388.9 / 10万

1.52倍

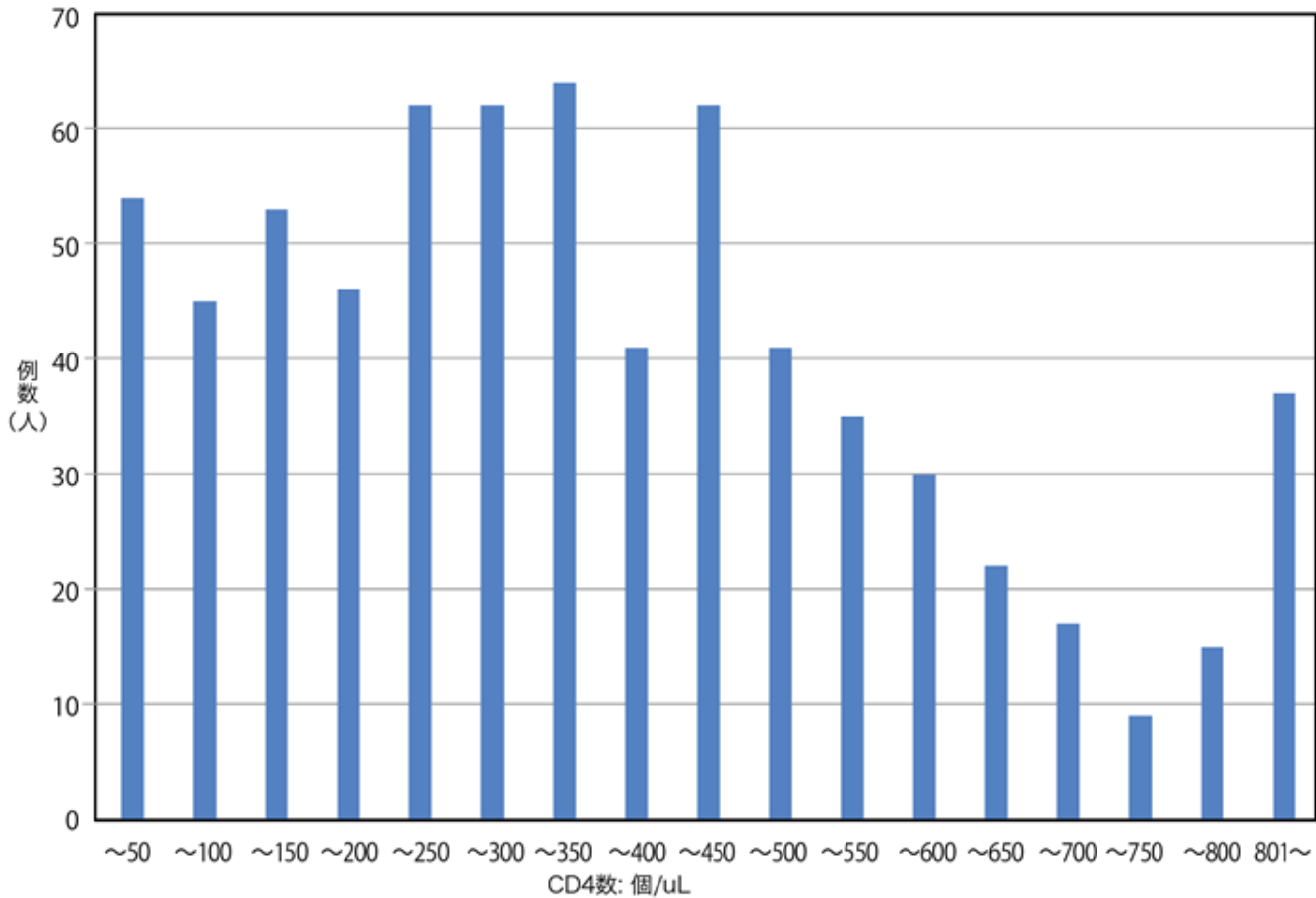
# 年別非AIDS指標悪性腫瘍発症例数



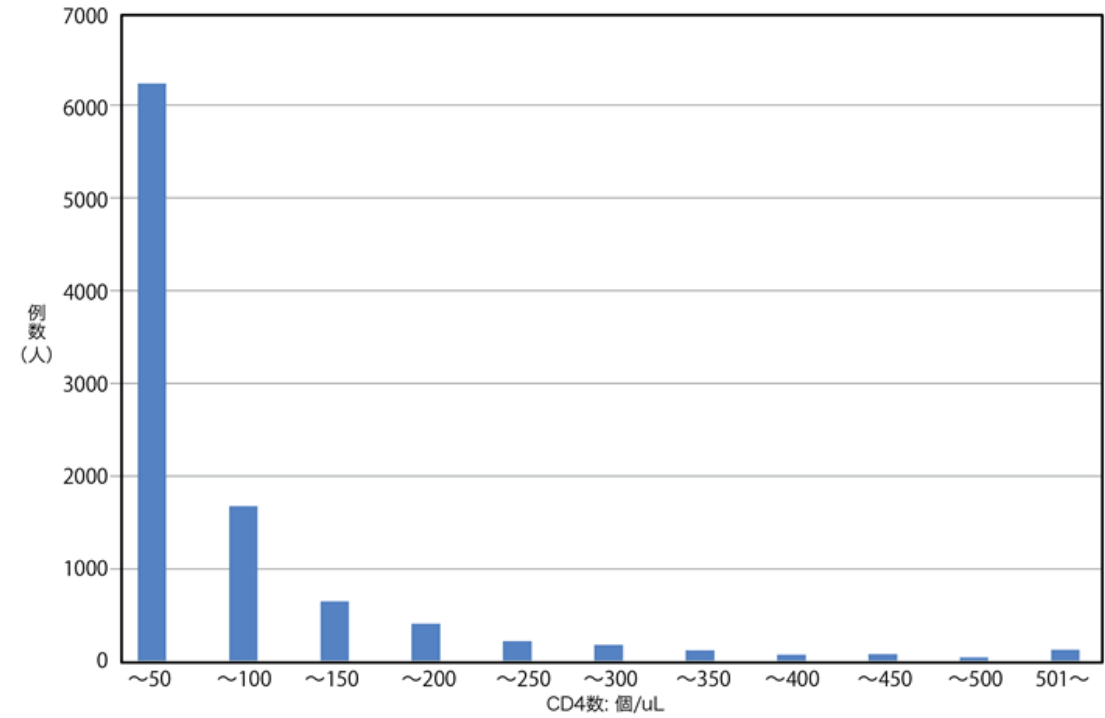
# 悪性腫瘍の疾患別報告数



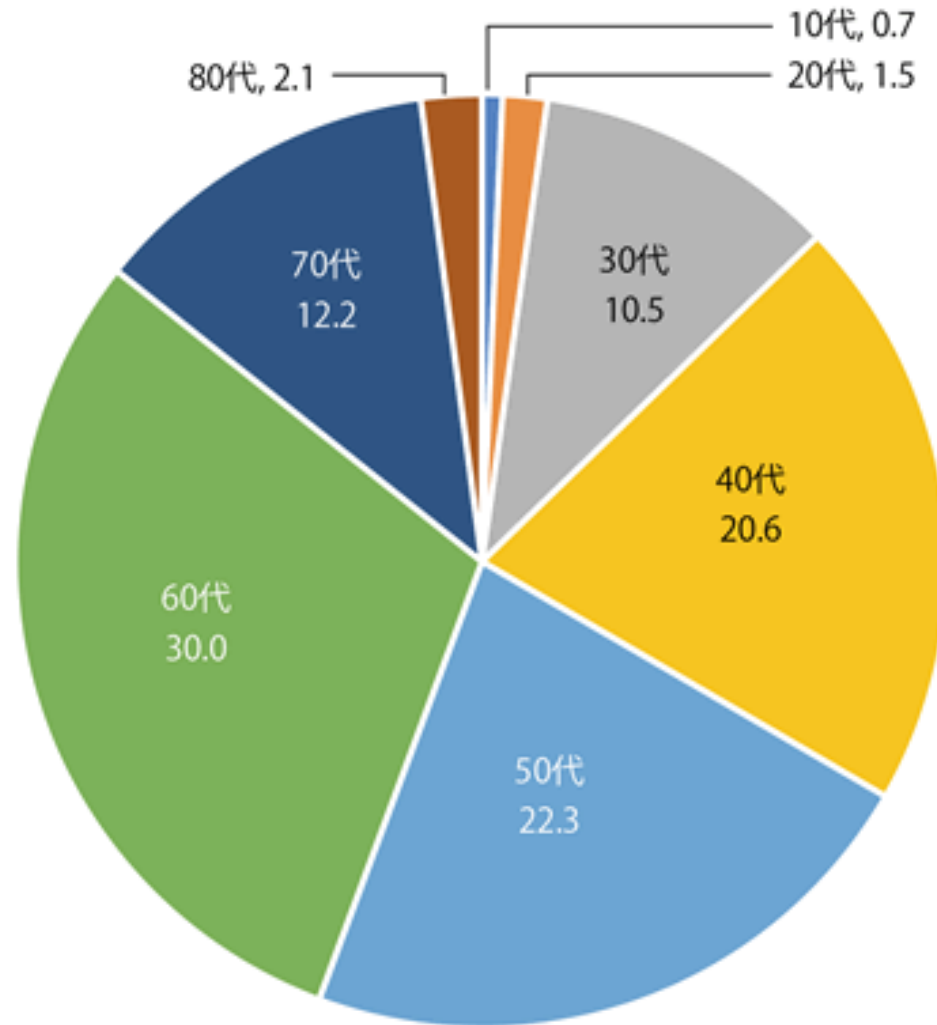
# 腫瘍発症時のCD4数の分布



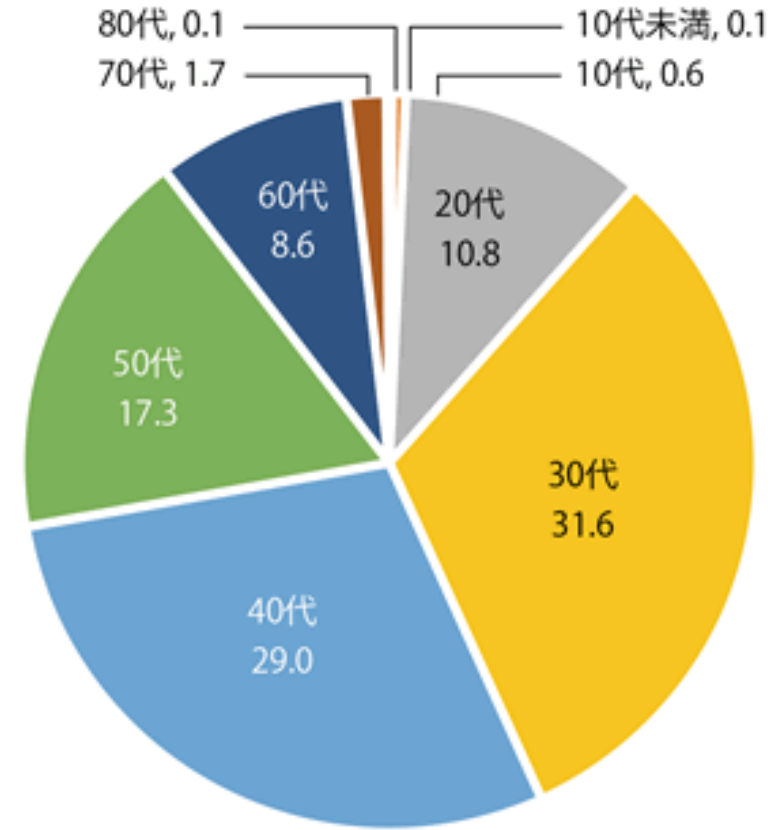
# 日和見合併症診断時のCD4数の分布



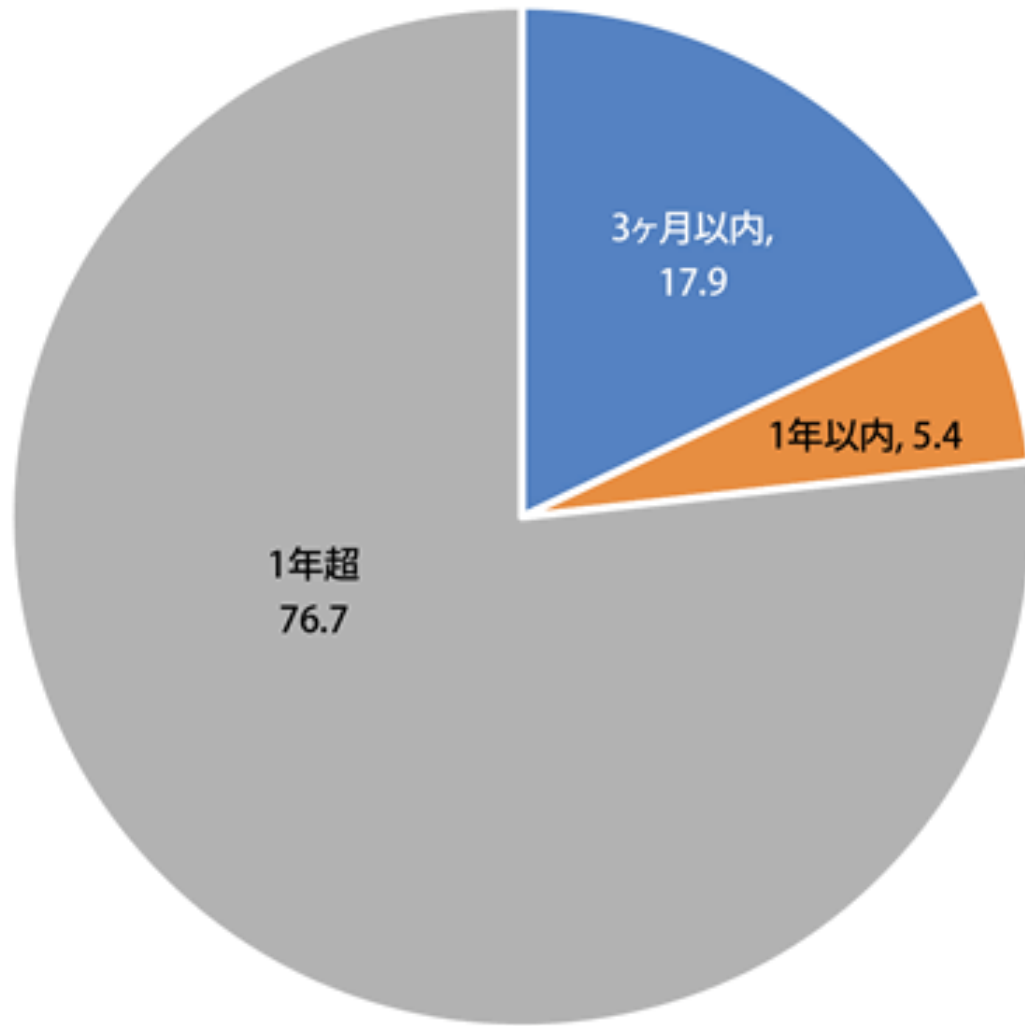
# 腫瘍発症時の年齢分布



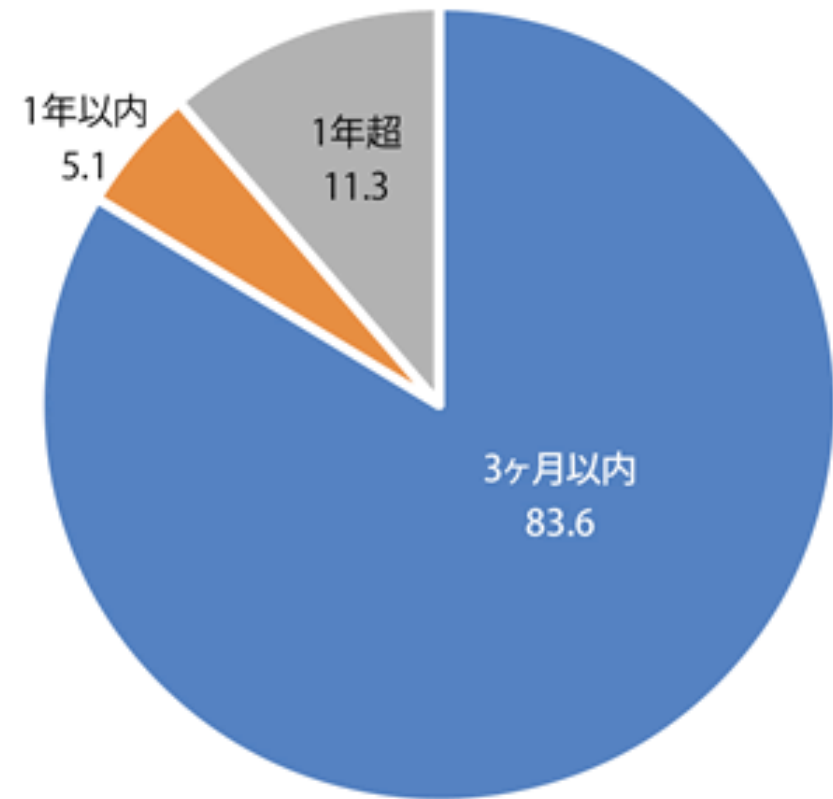
日和見合併症の発症時年齢分布(%)



# 腫瘍発生時期 (%) -HIV診断からの経過時間-

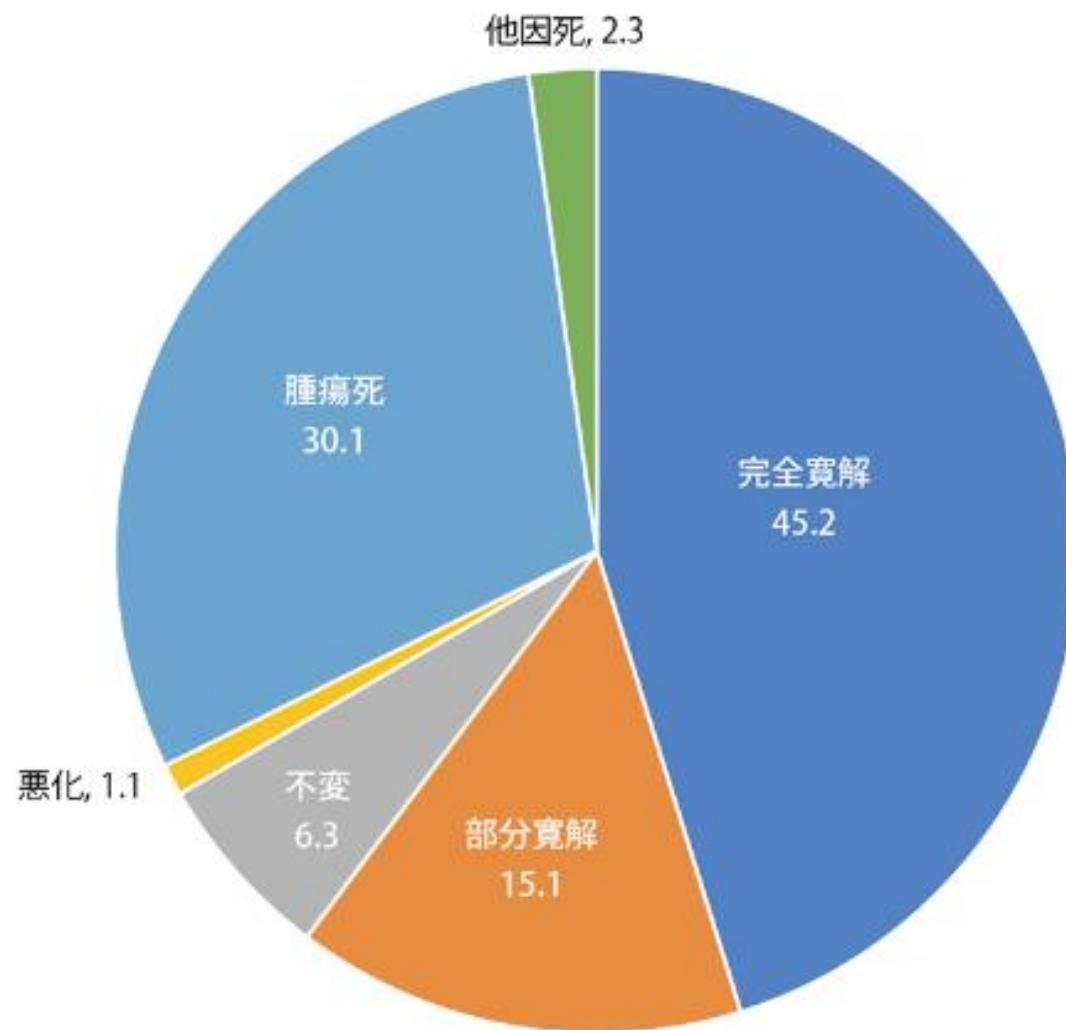


日和見合併症の診断時期分布 (%)

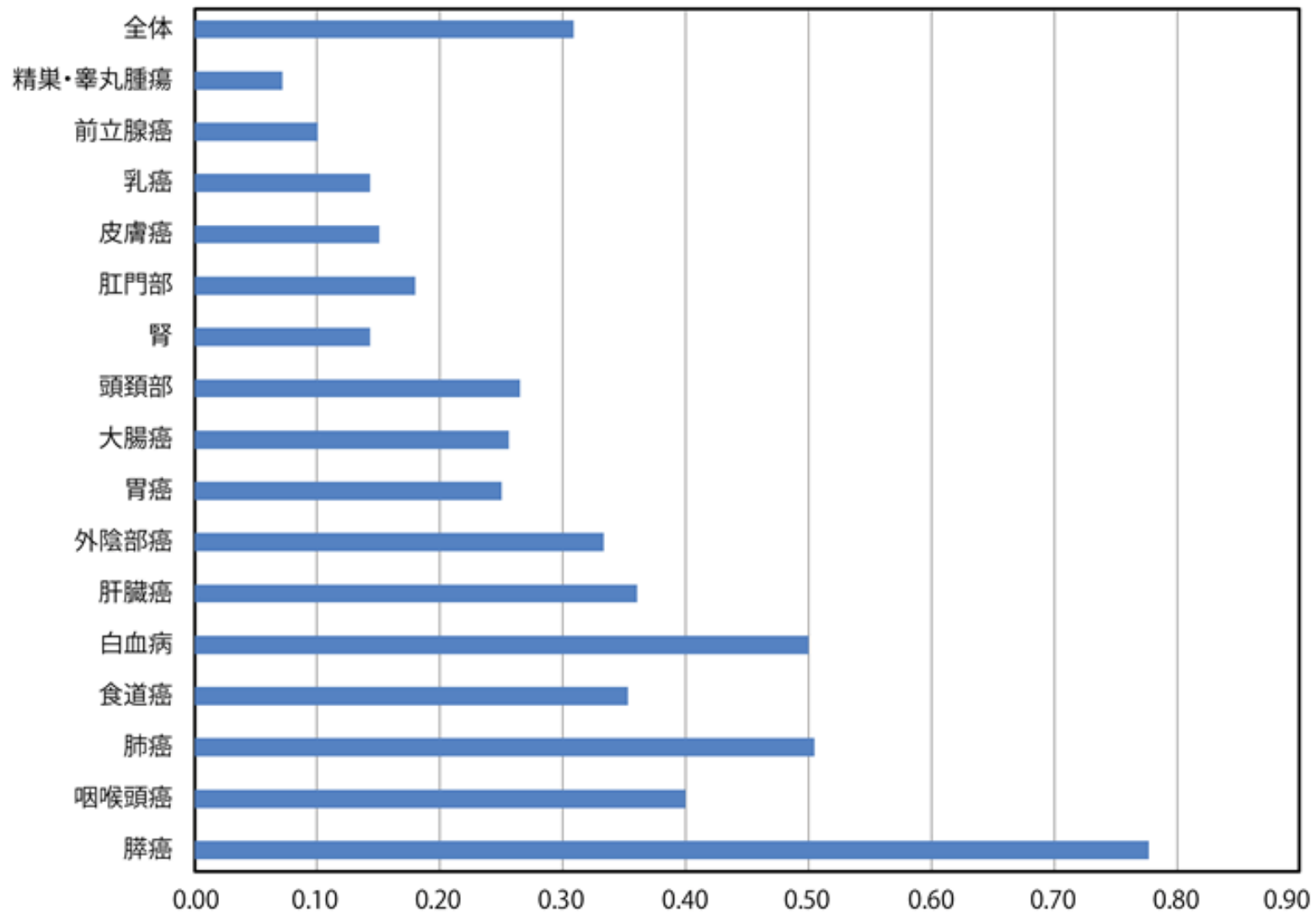




# 悪性腫瘍の転帰 (%)



# 腫瘍別の死亡の割合



アンケート結果

HIV感染症に伴う非エイズ指標疾患悪性腫瘍  
-全国HIV診療拠点病院アンケート調査 2018年-



今後のHIV診療では、抗ウイルス療法のコントロールや代謝系合併症などの注意にくわえて、悪性腫瘍の早期発見のための定期的なスクリーニングの実施が、一般の中高年者の外来以上に求められていくもの考えられた。

# HIVとCOVID-19について

## HIV陽性者が 知っておくべきこと

これまでのところ、HIV陽性者は特にCOVID-19の感染リスクが高いということを示すエビデンスはなく、感染したとしても病状が他の人より悪くなるというエビデンスもありません。この点は重要です。ただし、それはHIV陽性者にとって、COVID-19を軽く見ていいということではありません。自らを守るためにすべての予防策を取る必要があります。

一般人口層と同様、高齢のHIV陽性者や心臓や肺に疾患を抱えるHIV陽性者は、感染や重症化のリスクが高くなります。



- ▶ メディアによるCOVID-19の過剰なカバーにさらされることを避ける。信頼できる情報源からの情報のみを読む。
- ▶ 自分の体に気を付ける。深呼吸、ストレッチ、瞑想などを行う。バランスの取れた体にいい食事を取り、定期的に運動し、睡眠を十分にとり、可能ならアルコールや薬物は避ける。
- ▶ 後ろ向きの気分を解消するため、緊張をほぐし、自分を取り戻す時間を作る。ニュースを視たり、読んだり、聴いたりすることから離れて休む。危機について繰り返し聞かされれば心がかき乱される。普段の生活に戻れるよう、何か他に楽しく過ごせる活動を探す。



# 高齢化するHIV感染患者のケア

## HIV感染者の多様化する併存疾患

**心・脳血管疾患、慢性腎臓病、認知症、感染症、悪性腫瘍など**

**拠点病院以外の診療協力施設を拡充する必要**

- 地域の診療連携体制
- 多職種との連携体制
- 行政との協力
- マスメディアとの協力